

第3期千葉県がん対策推進計画 の中間評価について

(平成30年度～令和5年度)

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

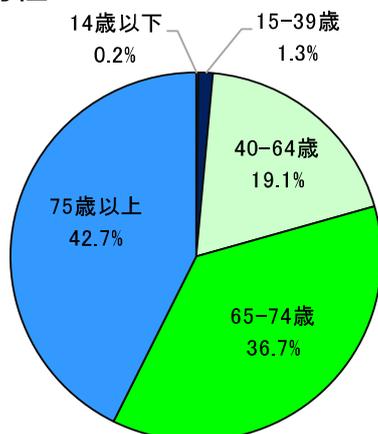
1

小児・AYA世代のがんの罹患状況（千葉県、2017年）

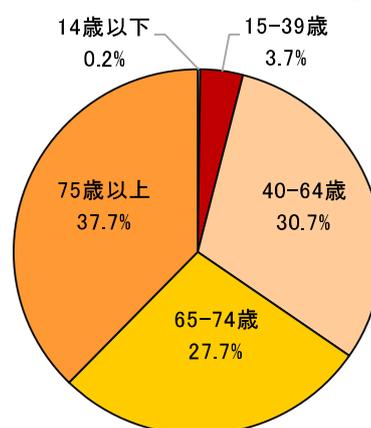
出典：千葉県がん登録事業報告書（第25報、2017年確定値）

年齢階級	14歳以下	15-39歳	40-64歳	65-74歳	75歳以上	合計
男性	56	341	5,216	10,013	11,623	27,249
女性	40	722	5,889	5,314	7,238	19,203
総数	96	1,063	11,105	15,327	18,861	46,452

男性



女性



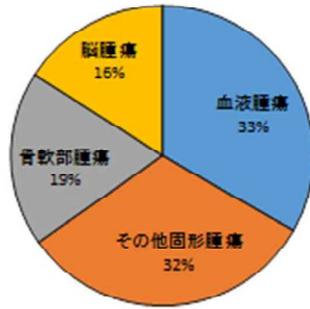
2

小児・AYA世代のがんの罹患状況（部位別）

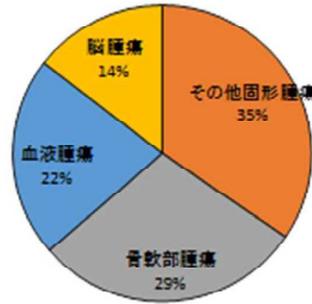
【小児】

出典：千葉県がん登録事業報告書（第25報、2017年確定値）

男児

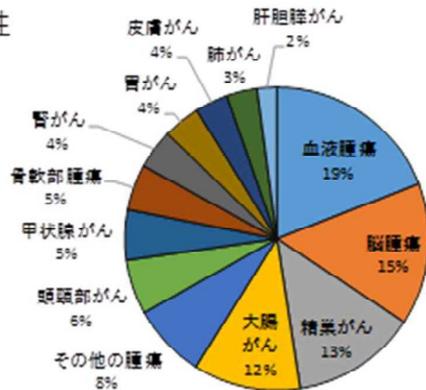


女児

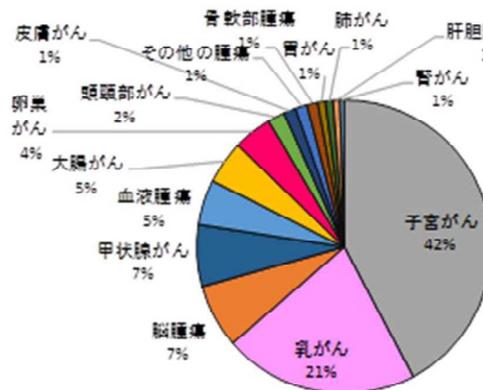


【AYA世代】

男性



女性



3

小児・AYA世代のがんの統計（生存率）

出典：国立がん研究センター「(2)013-2014年院内がん登録5年生存率集計」

15歳未満	5年生存率	平均年齢
白血病	88.0%	5.7歳
リンパ腫	90.7%	8.0歳
脳腫瘍	74.6%	7.3歳
神経芽腫	78.6%	1.9歳
網膜芽腫	95.4%	1.1歳
腎腫瘍	93.8%	3.9歳
肝腫瘍	87.1%	2.8歳
骨腫瘍	70.5%	10.9歳
軟部腫瘍	79.3%	7.5歳
胚細胞腫瘍	96.6%	8.3歳
その他のがん	91.0%	11.2歳

15歳以上40歳未満	5年生存率
白血病	75.0%
リンパ腫	90.1%
脳・脊髄腫瘍	84.3%
骨・軟骨腫瘍	70.5%
軟部肉腫	73.9%
胚細胞性腫瘍など	95.0%
黒色腫・皮膚がん	87.8%
甲状腺がん	99.2%
頭頸部のその他のがん	82.5%
肺・気管支のがん	58.5%
乳がん	90.0%
腎がん	93.5%
性腺のがん	79.0%
子宮頸部・子宮がん	89.0%
大腸がん	74.8%
胃がん	61.7%
肝内胆管がん	51.8%
すい臓など消化器系のがん	49.6%

4

第3期 千葉県がん対策推進計画の概要

基本理念： ちからを合わせてがんのうち克つちば

全体目標

1 がんによる死亡率を減らしていきます
(75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の12%減少)

2 がん患者とその家族が、がんと向き合いながら、生活の質を維持向上させ、安心して暮らせる社会を目指します

施策の体系

予防・早期発見

予防

- ・たばこ対策の充実
- ・生活習慣等の改善
- ・がんの予防の知識の普及啓発

早期発見

- ・がん検診の受診率の向上
- ・がん検診の精度管理等

がんとの共生

緩和ケアの推進

- ・がんと診断された時からの緩和ケアの推進
- ・地域緩和ケアの推進

相談・情報提供・患者の生活支援

- ・相談支援の充実
- ・情報提供の充実
- ・就労支援の充実

がん教育

- ・がん教育の推進

子ども・AYA世代に応じたがん対策

- ・子ども・AYA世代に応じたがん対策の推進
- ・情報提供の充実

医療

がん医療の充実

- ・がん診療連携拠点病院等及び千葉県がん診療連携協力病院を中心としたがん医療提供体制の推進
- ・地域医療連携体制の構築
- ・がん医療を担う人材育成
- ・がんゲノム医療の提供体制づくりの検討
- ・ライフステージに応じたがん診療
- ・希少がん、難治性がんの診療の質の向上、情報の提供
- ・口腔ケアに関する医科歯科連携

研究

がん研究

- ・基礎研究・橋渡し研究の推進
- ・臨床研究（臨床試験・治験等）の促進
- ・将来のがん予防のための疫学研究の推進

がん登録

- ・全国がん登録の運用、情報の活用
- ・院内がん登録の精度向上、分析と公表

全体目標

【全体目標1】

がんによる死亡率を減らしていきます

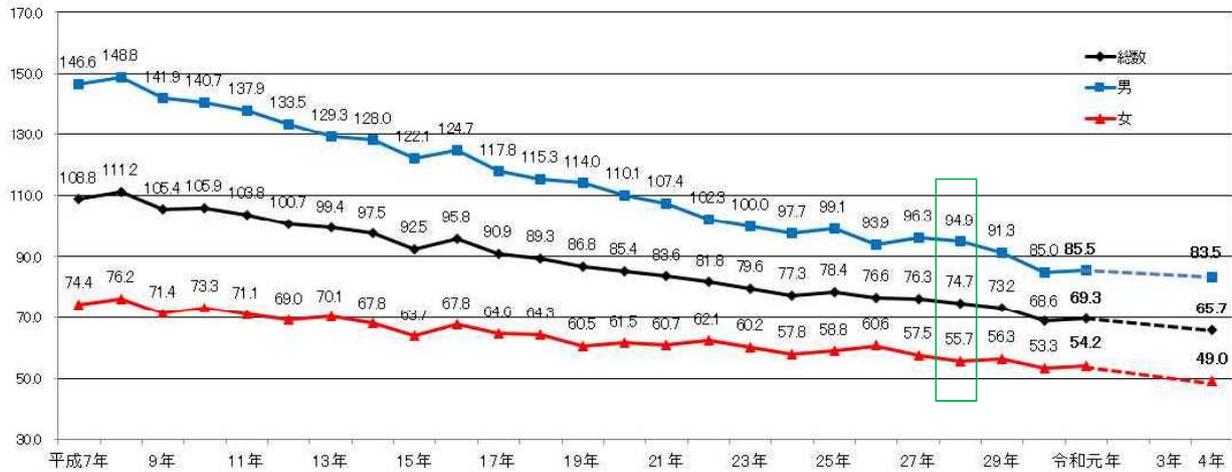
<数値目標>平成28年の数値と比較して、今後6年間の目標数値として、75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の12%減少

【全体目標2】

がん患者とその家族が、がんと向き合いながら、生活の質を維持向上させ、安心して暮らせる社会を目指します

【アウトカム】 がんによる死亡率の減少

■75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）



出典：都道府県別死亡データ（国立がん研究センターがん対策情報センター）

75歳未満の年齢調整死亡率は、令和元年とその10年前である平成21年を比較すると、男性20.4%減、女性10.7%減、全体で17.1%減となっている。

子ども・AYA世代における施策の方向

(1) がん医療の充実（小児がん、AYA世代のがん）

①小児がんの対策

千葉県小児がん診療医療機関実態調査から明らかになった実態と併せて、県内のがん医療や小児医療を担う医療機関等の関係者と連携を推進していきます。	県
千葉県子ども病院や千葉大学医学部附属病院等を中心に、県内の小児がん診療医療機関のネットワーク化を推進していきます。	医療機関
今後も千葉県小児がん診療医療機関実態調査を継続していくことで、在宅医療の実態の把握方法について検討します。	県

②AYA世代のがんの対策

<p>国は、小児がん拠点病院で対応可能な疾患と成人領域の専門性が必要な病態とを明らかにし、その診療体制を検討することや、多様なニーズに応じた情報提供や、相談支援・就労支援を実施できる体制の整備について、対応できる医療機関等の一定の集約化に関する検討をしております。</p> <p>拠点病院等は、専門的な治療施設の整備、遺伝性腫瘍、生殖医療に関する連絡体制の整備に取り組んでいきます。また、県においては、国の動向を踏まえながら、今後の方策を検討していきます。</p>	国、県 拠点病院
--	-------------

子ども・AYA世代における施策の方向

(2) がんとの共生（子ども・AYA世代に応じたがん対策）

①医療・教育・就労・福祉全般に渡る相談支援体制の整備

<p>がん診療連携拠点病院の相談支援センターでは、子ども・AYA世代の相談に対応できるよう努めており、特に小児がんについては、千葉県こども病院や一部がん診療連携拠点病院で専門的に対応しています。今後も更なる医療機関同士の連携による機能強化に努めていきます。</p>	拠点病院
<p>子ども・AYA世代のがん患者が治療を受けながら学業を継続できるよう、医療関係者と教育関係者が連携し、入院・療養中の教育支援、退院後の学校・地域での受け入れ支援体制の整備等を進めていきます。</p>	県 医療関係者 教育関係者
<p>小児がんで小児慢性特定疾病医療費助成制度を受給中の患者や家族に対し、健康福祉センター（保健所）等において、患者・家族からの相談に応じ、必要な情報や助言を行います。また、医療・保健・福祉・教育・就労分野等の関係機関と連絡調整等の業務を行い、患者等の健全育成、自立促進の支援を図っていきます。</p>	県
<p>子ども・AYA世代のがんについて理解を図るために、医療機関や相談体制、教育支援等の情報収集を進め、「千葉県がん情報 ちばがんナビ」や千葉県ホームページに掲載し周知に努めます。</p>	県
<h4>②小児がんにおけるピア・サポート活動</h4>	
<p>同じ仲間による支援（ピア・サポート）が闘病中の患者・家族の大きな支えとなることから、ピア・サポートサロンの開催やピア・サポート活動に参加する人材の資質の向上のための研修を行います。</p>	県

9

子ども・AYA世代における施策の方向

(2) がんとの共生（子ども・AYA世代に応じたがん対策）

③長期フォローアップ体制の検討

<p>国は、子ども・AYA世代のがんの経験者が治療後の年齢に応じて、継ぎ目なく診療や長期フォローアップを受けられる体制の整備を進めるため、3年以内に「小児がん療・支援のあり方に関する検討会」及び「がん診療提供体制のあり方に関する検討会」で検討を行い、小児がん拠点病院とがん診療連携拠点病院等の整備指針の見直しを行うこととしています。</p> <p>県は、国の動向を踏まえて今後の方策を検討していきます。</p>	国、県
---	-----

10

千葉県がん対策推進計画の取組(医療 令和3年9月末時点)

施策の体系			施策の方向	実施主体	取組状況	課題及び今後の取組	目標に対する進捗状況					
大項目	中項目	小項目					項目	計画改定時点	目標 <令和5年度>	現状値	達成状況 (%)	
2	(1)	がん医療の充実	⑤ 小児がん、AYA世代のがん、高齢者のがん	小児がんの対策	千葉県小児がん診療医療機関実態調査から明らかになった実態と併せて、県内のがん医療や小児医療を担う医療機関等の関係者と連携を推進していきます。	医療機関のネットワーク化及び小児がん患者とその家族等への支援体制の整備を検討する基礎資料とするため、千葉県小児がん診療医療機関実態調査を実施し、結果を県ホームページにて公開している。	引き続き、千葉県小児がん診療医療機関実態調査を継続して実態を把握するとともに、小児がん診療に携わる地域の医療機関が相互に連携するネットワーク体制を推進するために、小児がん診療連携および支援体制の充実や効果的な施策について検討する。					
			千葉県小児がん診療医療機関実態調査を継続していくことで、在宅医療の実態の把握方法について検討します。	千葉県小児がん診療医療機関実態調査にて、地域医療連携のためには医療機関の診療機能に関する情報公開が必要であるという意見が多いことを把握したため、専門的な治療を終えた患者の予防接種や風邪・けがの診療に対する連携状況を調査し、県ホームページにて公開している。	千葉県小児がん診療医療機関実態調査の調査項目に、在宅医療における移行期医療や晩期合併症の診察における連携状況を追加する。 また、小児がん診療を実施している診療所も調査対象に加える等、引き続き、医療機関（病院、診療所）の診療機能に関する把握、情報公開に努める。							
			AYA世代のがんの対策	国は、小児がん拠点病院で対応可能な疾患と成人領域の専門性が必要な病態とを明らかにし、その診療体制を検討することや、多様なニーズに応じた情報提供や、相談支援・就労支援を実施できる体制の整備について、対応できる医療機関等の一定の集約化に関する検討をしております。 拠点病院等は、専門的な治療施設の整備、遺伝性腫瘍、生殖医療に関する連絡体制の整備に取り組んでいきます。また、県においては、国の動向を踏まえながら、今後の方策を検討していきます。	千葉県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業を開始し、経済的な負担を軽減している。 がん治療実施医療機関と妊孕性温存療法実施医療機関における、がん・生殖医療ネットワーク連携体制整備に取り組んでおり、千葉大学医学部附属病院に千葉県がん・生殖医療相談支援センターを設置し、情報提供や相談支援体制を整備している。	今後も、多様なニーズを持つAYA世代のがん患者が前向きに治療に取り組めるよう、患者支援事業を推進していく。						

千葉県がん対策推進計画の取組(がんと共生 令和3年9月末時点)

施策の体系			施策の方向	実施主体	取組状況	課題及び今後の取組	目標に対する進捗状況				
大項目	中項目	小項目					項目	計画改定時点	目標 <令和5年度>	現状値	達成状況 (%)
3	(4)	子ども・AYA世代に对应したがん対策の推進	① 子ども・AYA世代のがん患者が治療を受けながら学業を継続できるよう、医療関係者と教育関係者が連携し、入院・療養中の教育支援、退院後の学校・地域での受け入れ支援体制の整備等を進めていきます。	県	教育関係各課と連携し、入院・療養中の子ども・AYA世代のがん患者への教育支援について患者会との協議の場を設定した。千葉県小児がん医療機関実態調査を実施し、入院中の教育環境について千葉県ホームページにて公開している。	教育関係者と医療関係者の連携が不可欠であるが、双方の連携の仕方や情報共有の方法、子ども・AYA世代のがん患者の教育支援に対する認識が十分ではない場合も少なくない。 入院中の患者との遠隔授業を行うためには、病室でのWi-Fi環境の整備が必要となる。 教育支援について、千葉県ホームページ、「千葉県がん情報 ちばがんナビ」にて情報を提供するとともに、「小児・AYA世代のがんの講演会」の対象に教育関係者を加える等、双方の理解を深める取組み、橋渡しとなる取組みを実施していく。					
			小児がんで小児慢性特定疾病医療費助成制度を受給中の患者や家族に対し、健康福祉センター（保健所）等において、患者・家族からの相談に応じ、必要な情報や助言を行います。 また、医療・保健・福祉・教育・就労分野等の関係機関と連絡調整等の業務を行い、患者等の健全育成、自立促進の支援を図っていきます。	県	健康福祉センター（保健所）等において、日常生活上の悩みや不安の解消につながるよう、関係機関との連絡調整、情報提供、助言等を行っている。 また、地域の実情に応じたテーマで、患者や家族のための交流会や、支援者向けの研修会を開催している。	健康福祉センター（保健所）等において、患者・家族への支援を行うとともに、関係機関の協議の場に参加し、地域における課題の整理や社会資源の開発等を行いながら、支援のための地域作り、連携の推進を図っていく。					
			子ども・AYA世代のがんについて理解を図るために、医療機関や相談体制、教育支援等の情報収集を進め、「千葉県がん情報 ちばがんナビ」や千葉県ホームページに掲載し周知に努めます。	県	千葉県ホームページに千葉県小児がん診療医療機関実態調査で把握した相談体制、教育支援情報を、「千葉県がん情報 ちばがんナビ」に、小児がん患者・家族向け情報冊子を掲載している。	就学・就労・妊娠・長期フォローアップ・晩期合併症等の相談体制、教育支援情報に対する情報を「千葉県がん情報 ちばがんナビ」に追加し、更なる情報提供、周知を図る。					
			小児がんにおけるピア・サポート活動	県	ピア・サポート活動に参加する人材の資質の向上、患者・家族間の交流を促進することを目的として、交流会・講演会を実施している。	新型コロナウイルスの影響で実施できない期間があったが、今後はオンライン開催など、参加者が安全に利便性良く参加できる方法での実施を検討する。 患者や家族が自助・共助を目的とした情報交換を行うことができるよう、患者会の協力を得ながら交流の場を設定していく。					
			長期フォローアップ体制の検討	県	国が進めている小児がん医療・支援についての検討結果を踏まえながら、小児がん拠点病院・小児がん連携病院等と成人医療施設との連携や、県内の医療機関の長期フォローアップ体制等の実態把握方法について検討を進めている。 また、千葉大学医学部附属病院に県が移行期医療支援センターを設置しており、子ども・AYA世代のがんの経験者、患者が年齢に応じた適切な医療を受けることができるように支援している。	千葉県小児がん診療医療機関実態調査にて、小児がん治療を行っている医療機関の長期フォローアップ外来設置の有無や受入れ体制等の実態把握を行い、共通の課題把握や必要な支援を検討する。 また、地域における子ども・AYA世代のがんの経験者、患者の移行支援を行える人材の育成について検討し、小児科から成人診療科への受診の移行が円滑に遂行されるよう、両科の連携強化に努める。					